



〒530-0047

大阪市北区西天満 3-13-9

西天満パークビル4号館5階

TEL.06-6314-1652 (代)

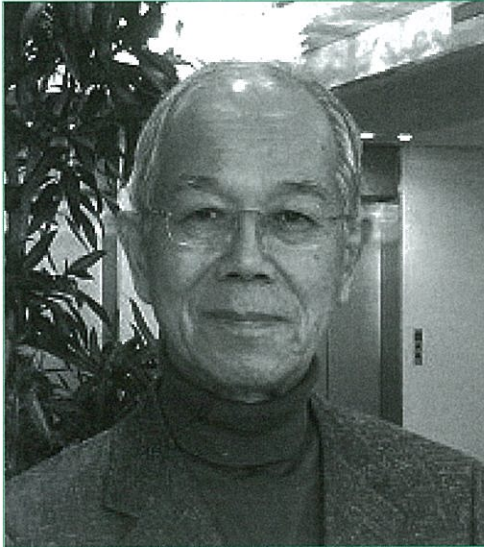
FAX.06-6314-3696

NPO法人

ささえあい医療人権センターCOML(コムル)

ISSN 1340-3427

## COMLひとことインタビュー



## ●ふくの若葉病院院長

かど や さとる

## 角家 暁さん

職員が気持ちよく働ける環境を提供することが院長の役割だと思っています。院長になった際「いい病院で働いていますねと言われるような病院にしましょう」「自分の家族を預けられる病院にしましょう」という標語を掲げました。主体的に働ける委員会制度も確立し、離職率も低くなりました。

## 「看取り」も医療の重要な使命です。

当院は地域に密着する療養型病院です。「医師は患者の一生にかかわる」が私の信条。そこで、それまで脳神経外科医として勤務していた大学病院を2000年に離れ、慢性期を診る療養型病院の院長になることを“天命”と思い引き受けました。

ところが、2006年に“医療区分”が導入されてから、症状の重い患者さんの割合が急増し、退院する全患者さんのうち、7割以上の方が死亡退院という状況になりました。医師として当然「治す」ことに使命感を持っていた私には、「看取り」が主な仕事になることに頭の切り替えが必要でした。

しかし、人生の終焉にかかわる仕事は非常に崇高です。人生を終えるときに幸せだったと思ってほしいし、ご家族の心配や不安も受けとめたい。そこで、ケアカンファレンスという今後の方針を決める会議には、スタッフだけでなくご家族やご本人にも入ってもらい、希望をお尋ねすることにしました。ただ、人の気持ちは変わるもの。“一度聞いた希望にこだわらない”ことを全職員が徹底し、何回も面談を繰り返すことにしています。

それから当院の方針として胃ろうを作らず、胃ろう状態で入院してきた人は胃ろうを抜いて、なるべく口から食べられるようにしています。一般的に誤嚥性肺炎を防ぐために胃ろうは作られますが、口腔内ケアをし、食事、食材、食べ方、体位などに気をつければ、誤嚥性肺炎の頻度は意外と低いのです。人手はかかりますが、その方に表情が出て、尊厳が保てると考えています。

そのような姿勢が伝わっているのでしょうか。6～7割ものご遺族が後日お礼を伝えに、わざわざ病院を訪ねてくださいます。それがスタッフの励みにもなっています。

(インタビューー 山田彩乃)

## 2011年2月号の目次

ひとことインタビュー 角家 暁さん	1
COMLに届いた相談から	2
2010年の相談件数と傾向	4
2010年の電話相談を振り返って	5
COMLにプレゼントされたBOOK紹介コーナー	5
COML20周年記念行事 賢い患者になりましょう! 医療コミュニケーション上達講座 in 金沢開催!!	6
COMLの目79	8
うまく活用していますか? 高額療養費制度	
広がれ! 患者のネットワーク④	10
からだところどころの発見塾	
患者発信! 気づきと発見リポート⑥	11
1月の活動報告・センターだより 他	12

## ●第180回患者塾

財産管理や契約行為に不安を感じたら

## 弁護士が伝える成年後見制度

とき 2011年3月5日(土) 14:00~16:30

(初参加者は13:30~オリエンテーション)

話題提供 弁護士 内山由紀さん(大阪弁護士会)

ところ エル・おおさか(大阪府立労働センター)6階606号室

参加費 1,000円(要予約)

名称変更しました!

## ●COML20周年記念行事

## 講座 医療を知ろう!

しくみ・課題・情報・お金

とき 第1日目 2011年3月12日(土) 10:00~17:00

第2日目 3月13日(日) 10:00~17:00

ところ 中野サンプラザ(東京都中野区)

参加費 15,000円(2日分・要予約)

## ●1月の活動報告

## 講演・シンポジウム

- 18日 東京医科歯科大学  
20日 大阪民医連医療安全推進者養成講座  
22日 北海道病院協会  
24日 アストラゼナカ株式会社R&D全体会議(大阪)  
28日 大分大学医学部看護学科  
30日 「病態と薬理を理解して薬学的ケアを実践する」研修会  
—乳癌—(東京)

## 掲載誌(紙)

- 1日 『すこやか健保』(健康保険組合連合会)  
『クリニックマガジン』(㈱クリニックマガジン)  
6日 朝日新聞  
7日 『QLifeSQUARE』(Webマガジン)(Qlife)(21日也)  
10日 『看護学生』(㈱メヂカルフレンド社)  
25日 『薬業時報』(㈱じほう)  
31日 『徳洲新聞』(一般社団法人徳洲会)

## SP(模擬患者)セミナー

- 10日 天理よろづ相談所病院研修医(会場:COML事務所)  
18日 兵庫医科大学  
21日 兵庫医療大学看護学部  
25日 富山大学  
エコチル調査京都ユニットセンター コーディネーター研修

## その他の活動

- 新規会員 5名  
15日 賢い患者になりましょう!  
医療コミュニケーション上達講座 in金沢  
22日 患者と医療者のコミュニケーション講座  
ステップアップ講座1日目

コムルのホームページ・アドレス <http://www.coml.gr.jp>コムルのブログアドレス <http://coml-blog.cocolog-nifty.com/blog/>コムルのメールアドレス [coml@coml.gr.jp](mailto:coml@coml.gr.jp)coml-net(COMLのメーリングリスト)参加ご希望の方は、  
「参加を希望します」というEメールを下記アドレスまでお送りください。[coml-net-subscribe@yahoogroups.jp](mailto:coml-net-subscribe@yahoogroups.jp)

## カンパありがとうございます名簿 2011.1.1~2011.1.31

鈴木綾子・岩倉あや子・西和子・黒瀬真由美 “ミズの会”有志の方々・井上丈久・伊賀俊行・奥村伸二・大田豊隆・田端志郎・菊地博達・木田孝太郎・松井豊・梅田正博・西尾幸浩・泉武寛・斎藤和則・金子一成・加部一彦・喜田裕也・佐藤勝二宮聖耳・上辻祥隆・飯田伊佐男・上農哲朗・関直樹・金岡裕夫・加藤治子・匿名1名(敬称略。資金カンパ以外に、切手やはがきなどの物品カンパ、技能ボランティアなどのご支援をいただいた方々です)

## センターだより

先月から私も相談スタッフの一人として、ご相談の電話をお聴きするようになりました。じつはCOMLの電話相談の件数は、2003年をピークに徐々に減少傾向にあります。私がスタッフになった2005年当時でも、次々と電話が鳴り、すぐには相談スタッフにおつなぎできず、再度かけ直していただくことはしょっちゅうでした。それがいまでは午前中に相談の電話が1本も鳴らない日もあるくらい。そんななか、私がお聴きした女性が最後に「いまだき、どんなところにかかるかわからないから、いつもだったらかけないけれど、部屋を片づけていたときにちょうど出てきた切り抜きが、神様からの思召しだと思って電話をかけたんです。元気になったら、報告の電話をまたかけてもいいですか?」と教えてくださいました。病気と向き合う女性の前向きさに私が励まされ、また、勇気を出して電話をかけてくださった方のお気持ちを裏切らないようにしたい、と強く思わせてくださったお言葉です。(菜)

サッカー—日本代表のアジアカップは見事優勝! 実に興奮しました。とはいえ私は、Jリーグの試合は観ないのに、こういつときだけ熱心になるミーハーです。それにしても昨年のワールドカップでも思いましたが、日本のサッカーは一首前とは違って、観ていて楽しいこと楽しいこと。今回はとくに韓国戦の、本田→長友→前田の一点目。非常に鮮やかなプレーで、点が入った喜びだけでなく、〈どうしてあんな動きができるの!〉と感動しました。決勝戦の長友→李のダイレクトボレーシュートもものすごくきれいでした! そして密かに楽しみにしていたのが、スーパースロー再生。ちょっと前に起きたプレーやファウルが詳しくわかって役に立ちます。しかし時々〈ん?〉と思う映像も。選手がただ水を飲んでるシーンとか、しゃがんでいるサポーターが立ちあがる瞬間とか、「なにこれ!」「意味ない!」とテレビにツッコミを入れるのがこれまた面白かったです。(彩)

「スタッフ4人揃うと何かが起きる」——これはCOMLのジグクスです。1年半前、沖縄への病院探検隊に便乗して親睦旅行をしたときは台風と遭遇。20周年記念行事は土砂降り。12月の東京への出前講座では、帰りの新幹線が人身事故でストップし、乗車予定の新幹線が運休。そして、そして、1月の金沢への出前講座は暴風雪…でした。外に出れば横殴りの強風に乗った雪に顔をたたくれぬ! 講座の翌日、東京へ移動する予定だった辻本の搭乗予定の飛行機が欠航になり、急ぎょ一緒に大阪へ帰ることに。すぐに特急の手配はできたのですが…。雪深い地域は快調に飛ばしていたのに、雪が少なくなった琵琶湖南部辺りから「前の普通電車を追い越せません」「車体への着雪量が多くて時速70km以上出せません」。挙句の果てには理由がわからないまま京都を超えた辺りで15分以上停車。何と京都から大阪まで1時間以上かかり、90分の遅れで大阪にたどり着いたのでした。北国に縁遠い人間にとっては「美しい雪景色」も、地元の人にはうんざり。それを味わった経験でした。(育)

これまでは2週ごとの抗がん剤治療だったのに、治療内容が変わり、毎週に。これからは、3週続けて1週お休み…というスケジュール。2週ごとに“その日”を迎えることも結構辛かったんですが、やはり毎週となるとさらにキツイ! もちろん副作用はそれなりにコントロールされてはいても、ほぼ一日かかる検査と受診と点滴。まず採血して結果を待つこと1時間。そして診療後に点滴の調剤で1時間。10数台の点滴ベッドの並ぶ外来化学療法室は、つねに満員状態。ここで1時間以上の待ち時間を余儀なくされ、そのあとに2時間以上をかけた点滴が続くのです。本を読んだり、好きな音楽を聴いたり、うたた寝をしたり…うんざりしながら点滴台に身を預けていたそのとき。フッと、〈待て待て、週に一度の2時間で弱音なんか吐いたら、透析患者さんに申し訳ない!〉と気づかされました。辛い思いをしなから病と向き合っている患者仲間は大勢いる。私だけじゃないんだと周囲を見回しながら逆に励まされました。これも外来治療が目論む、もう一つの治療効果なのかもしれません。まだまだ頑張ってます!(好)

## 会報誌COML

創刊	1990年9月15日
発行	辻本 好子
編集	山口 育子
発行所	NPO法人 ささえあい医療人権センターCOML(コムル) 〒530-0047 大阪市北区西天満 3-13-9 西天満パークビル4号館5階 TEL 06-6314-1652 FAX 06-6314-3696
年会費	正会員6,000円 賛助会員4,000円(学生は半額) (調査協力を依頼する弁護士:特別会員)
会員申込み	郵便振替 00930-9-50565 「医療人権センターCOML」
活動支援	三菱東京UFJ銀行 梅田新道支店(普)1178138
会員外定価	1部 367円(税込)

**NPO法人ささえあい医療人権センターCOMLは…**1990年9月に活動をスタートし、2002年4月にNPO法人化しました。「いのちの主人公」「からだの責任者」である私たち市民中心のグループです。COMLでは、「賢い患者になりましょう」を合言葉に、患者の主体的な医療への参加を呼びかけています。患者と医療者が、対話と交流のなかから互いに気づき合い、歩み寄ることのできる関係づくりを願っています。COMLは、患者中心の開かれた医療の実現を目指します。